

【SNS を利用した論文広報②：ケーススタディ】

【永井 裕子】（所属：日本動物学会）

【発表内容】

日本動物学会では、従来、研究者に直接電子メールを送付して研究論文の引用のための広報活動を行ってきた。しかし、EU での The General Data Protection Regulation (GDPR) Regulation (EU) 2016/679 の施工により組織からのメールを利用した研究者個人へのキャンペーンが非常に難しくなってきたため、SNS を活用した新しいプロモーションの模索を始めた。

Facebook や Twitter などの SNS を利用した論文プロモーションとの親和性を考慮し、Plain Language Summary や Graphic Abstracts、ORCID、フルテキストへの導線を準備する形での、論文自体へのランディングページの作成を行った。日本動物学会で出版している学術雑誌「Zoological Letters」の編集委員が厳選した 2019 年の計 32 論文について SNS 利用した広報活動を行なっている。

今回は、日本で提供されるのが初めてのサービスということもあり、サービスの導入にあたり、SNS サイトの立ち上げ、学会内での理解、学術雑誌編集長や著者への理解、外部の業者のコントロールなど、様々な問題があった。しかし、特に SNS に詳しく、自分の研究成果を広報したいと考えている若い研究者には非常に好評であった。SNS と相性の良い幅広い興味を引く内容からより深い著者の研究成果に結びつけるこの手法は、論文広報手段として有効だと考えている。また、学会運営という視点でも、SNS を交流の場として提供することで世界の研究者と新しい発見についての情報交換を活発に行うことができ、新しい情報を入手可能な場としての SNS の役割が期待できる。さらに、学会の出版広報活動を SNS を介して提示することで、活動自体がフォロワーという形で数で表示され、活動の効果が数値として把握できるメリットがある。

今回の報告では、日本動物学会での論文のランディングページ作成と SNS を活用した論文のプロモーション事例について報告し、現時点でのその課題と成果について述べる。